

研究・調査報告書

報告書番号	担当
308	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Associations of alcohol consumption with blood pressure and serum lipids in Japanese female smokers and nonsmokers 喫煙者・非喫煙者別にみた日本人女性における血圧、血清脂質と飲酒量の関係について	
執筆者	
Wakabayashi I, Araki Y.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Gend Med. 2009 Apr;6(1):290-9.	
キーワード	
飲酒、血圧、コレステロール、喫煙、女性	
要旨	
目的： 飲酒と喫煙は動脈硬化の進展に関わっているとされている。この研究の目的は、飲酒と血圧、血清脂質の関係が日本人女性において喫煙に影響されるか確認することである。	
方法： 対象者は山形県内の事業所で定期健診を受診した 35-55 歳の健康女性である。対象者は喫煙者、非喫煙者で 2 群に、日々の平均飲酒量で非飲酒者、少量飲酒者(15g/日未満)、大量飲酒者(15g/日以上)の 3 群に分けた。収縮期血圧・拡張期血圧・総コレステロール値・LDL コレステロール値・トリグリセリド値を年齢と BMI で調整し、喫煙の有無による 2 群、飲酒量による 3 群で比較した。	
結果： 16,805 名の健康女性 (非喫煙者 14,695 名、喫煙者 2,110 名) について集計した。喫煙者においては、多量飲酒者は非飲酒者に比べて有意に収縮期血圧が高く、少量・大量飲酒者は非飲酒者に比べて有意に拡張期血圧が高かった(すべて $p<0.01$)。非喫煙者においては、非飲酒者に比べて少量・大量飲酒者の収縮期血圧は有意に高い訳ではなく、拡張期血圧は大量飲酒者と非飲酒者で有意であったが($p<0.01$)、少量飲酒者と非飲酒者では有意ではなかった。喫煙者では、非喫煙者ではそうではなかったが、非飲酒者に比べて大量飲酒者は総コレステロール値は有意に低かった。喫煙者・非喫煙者ともに、LDL コレステロール値は非飲酒者に比べて少量・大量飲酒者は低く(すべて $p<0.01$)、HDL コレステロール値は非飲酒者に比べて少量・大量飲酒者が有意に高かった(すべて $p<0.01$)。非飲酒者に対する少量および大量飲酒者の LDL コレステロール値の平均値の差は、数値上は、非喫煙者より喫煙者の方が大きかった。	
結論： この日本人女性の集団では血清 LDL コレステロール値は非飲酒者より飲酒者の方が有意に低く、喫煙が飲酒と低 LDL コレステロール値の関係を強めたのかもしれない。	